造影MRI検査における造影投与に関する説明

造影剤の説明

造影剤は MR 画像に白黒の濃淡をつけて診断の手助けをするための薬です。検査内容や体重によって約 10～30cc 使用します。静脈内に投与し、腎臓の機能が正常であれば、造影剤は尿として 24 時間後には 90%以上体外へ排泄されます。

★副作用

軽い副作用は、発疹・嘔気・嘔吐・頭痛・熱感・動悸などです。これらは多くが治療を要さないか、1～2 回の簡単な投薬や注射で回復するものです。このようなことが起こる確率は、100 人当たり約 1 人（1％）です。

重い副作用は、血圧低下・意識消失・呼吸困難などです。これらは、入院治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このような確率は、1 万人当たり約 1 人（0.01％）です。極めてまれですが、100 万人当たり約 1 人（0.0001％）の割合で、死亡する場合もあります。

副作用の生じる可能性は、アレルギー体質の方が、そうでない方と比べ数倍多いとされています。また、以前造影剤で具合が悪くなったことがある方も副作用の出現率が高いとされています。腎臓の機能の悪い方がこの造影剤を使用すると「腎性全身性線維症」や「急性腎不全」という病気になる可能性があります。

また、吸入や内服が必要な「喘息（ぜんそく）」の方にはこの薬を原則的に使用しませんが、医師の厳重な監視の下で使用する場合もあります。該当する方は検査前に必ず医師または看護師、診療放射線技師にお伝えください。

病院外で副作用と思われる上記症状が起こった場合には、当院救急外来（電話 029－851－3511（代表））までご連絡ください。その際、いつ造影剤を注射したかをお話ください。

- 勢いよく造影剤を注入する事があり、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射した部位がはれて、痛みを伴う事もあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもあります。
- 検査前の絶食の指示が出る場合がありますが、水のみ飲んでいただいて結構です。検査後は、他の検査の指示がなければ特に生活上の制限はありません。造影剤が尿として早く排泄されるように少し多めの水分を取ってください。
- 授乳中の方は、48 時間は授乳をさけてください。

医師は造影剤を使用する利益と不利益を考えた上で、造影剤の使用があなたにとって利益になると判断した場合、造影検査を勧めています。

安全に造影検査を行うために、別紙の問診票および同意書にご記入ください。問診表の内容によっては、造影剤を使用しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。